



日本医療機能評価機構認定病院
京都山城総合医療センター
 Kyoto Yamashiro General Medical Center

発行元 京都山城総合医療センター
 発行元責任者 中井 一郎

甲午の年、始まりの年、そして夢の年！



年頭の「ご挨拶」
 院長 中井 一郎



皆様、明けまして、おめでとうございます！
 無事に新年を迎えることができましたが、これも地域住民の皆様のご理解・ご協力そして職員一同の努力のおかげと感謝申し上げます。昨年は富士山の世界遺産登録や2020年東京オリンピック招致決定など、日本人の夢を膨らませた年でありました。また、11月3日には楽天イーグルスが日本一に、偶然とはいえ3月11日の東日本大震災の裏返しの日であり、東北の方々にこの上なき夢を与えたのではないのでしょうか。当院も「医療センター」へと改称の夢をかなえました。皆様の今年の初夢は如何なものでしたでしょうか。私の初夢は???

本年は甲午（きのえうま）の年。この年生まれの方は騎馬または競馬と言われ、華やかな人生を歩まれるそうです（本年中に出生予定の方々、誠にめでたうございます）。また、「甲」は物事の始まりを表すそうです。我々はこの年、新たな医療の展開へと草原を疾走する馬の如く駆け出したところでもあります。

本年最大の課題は、地域住民の方々の要望にお答えできる医療展開を目指すことです。当院では、近々に「物忘れ外来」を新設し、認知症対策を開始致します。また、回復期病棟の開設を検討中であり、すぐには自宅療養できない方にケアのできる環境を整えるべく検討しております。6月の病院機能評価

(3rd Gr. Ver.1)に先立ち、3月にはその予備審査が控えております。これを機に、当院がさらに、皆様方に親しまれる病院となることを目指します。

長期的目標である①医療内容の充実、②職員の労働環境改善、③健全経営の3点につきましては、具体的施策の「始まりの年」となればと考えます。①昨年11月の府立医大産婦人科・北脇教授のご講演に始まり、今年は乳腺外科・田口教授や泌尿器科・三木教授などをお迎えする予定です。京都府立医大との人的交流を深め、より一層の医療の質の向上を目指したいと考えております。

②昨年のワーク・ライフ・バランスの検討会の提言を基に、生きがいのある「和気あいあい」とした職場作りを始めたいと思います。如何せん、昨年は30人を超える看護師さんの育児休業などにより、他の部署ともども人員不足に悩みました。幸いに致しまして、今春には多くの新規採用者が内定しており、過酷な勤務体制にも少し余裕ができるのではないかと期待しております。本年はじっくりと基盤を作り、次への飛翔を期したいと存じます。③何とか4年連続の黒字決算とすべく邁進しています。

最後となりましたが、地域住民の皆様方にとりまして、本年が夢多き年となりますよう祈念致します。私ども職員一同も、この1年間夢を追い続けていきたいと思っております。

腎臓内科（慢性腎臓病センター）紹介

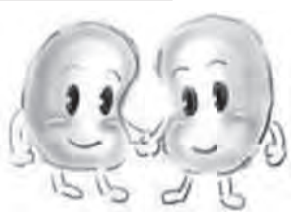
平成25年9月1日より新しく「腎臓内科」が開設されました！
 現在、日本には約30万人の透析患者さんがいます。これは国民500人に1人が透析患者という計算になりますが、透析患者数は増加の一途をたどっています。一方で、慢性的に腎機能が低下している、または腎臓の病気がある透析予備軍を「慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease : CKD）」と呼びます。

慢性腎臓病（CKD）の定義
 （下記のいずれか、または両方が3ヶ月以上続いている状態）

腎障害
 たんぱく尿（微量アルブミン尿を含む）などの尿異常、画像診断や血液検査、病理所見で腎障害が明らかである状態

腎機能の低下
 血清クレアチニン値をもとに推算した糸球体濾過量（eGFR）が60ml/分/1.73m²未満の状態

- 腎臓の障害例
- ・血尿や蛋白尿などの尿の異常
 - ・片腎や多発性嚢胞腎など画像の異常
 - ・血清クレアチニン値上昇などの腎機能低下
 - ・腎生検などで病理組織検査の異常
 - ・ナトリウム・カリウムなどの電解質異常など



現在、日本には約1300万人のCKD患者さんがいると推定されています。これは、成人の約8人に1人にあたる数ですが、こちらも同様に急激に増えています。CKDはこれだけ頻度の高い国民病であるにもかかわらず、患者さんの大部分は何の症状もないまま、徐々に腎機能が低下していき、末期腎不全へと進行していきます。一方で、CKD患者さんは透析の予備群だけでなく、心血管疾患（脳卒中・心筋梗塞など）の発症や死亡率が高いことが報告されており、CKDは皆さんの健康にとって極めて重要な慢性疾患です。しかし、CKDは早期発見・早期治療することによって、病気の進行を抑えることができるのです。

腎臓内科では、①軽度の検尿異常から早期にCKDの的確な診断をして治療を開始し、CKDの進行抑制・寛解導入を目指した診療、②末期腎不全に陥った場合は、腎代替療法の選択・導入（腹膜透析・血液透析）とその後の管理、を行っています。

さらには、当院では、臓器別診断・治療センターの一部門として、腎臓内科と泌尿器科・腎不全科とが密接に連携した「慢性腎臓病センター」を設立、包括的にCKDの診療にあたっています。地域の基幹病院として、そして高次機能をもつ総合医療センターとして、皆さんの腎臓を守っていきたく思っています。

ところで、皆さん、検尿されていますか？CKDの重要なサインは尿の異常（蛋白尿や血尿など）です。検尿で異常が見つかれば、放置せず、必ず腎臓内科を受診するようにしてください！

医師紹介



腎臓内科医師 中谷 公彦

はじめまして。2013年9月から腎臓内科に着任致しました中谷公彦と申します。今までは、お隣の奈良県にある奈良県立医科大学に勤務し、腎臓内科・膠原病内科を中心とした診療・研究・教育に携わってまいりました。腎疾患は、膠原病・リウマチ疾患、糖尿病、メタボリックシンドロームなどに続いて発症することがよくありますので、腎疾患を全身の病気のひとつとしてとらえて、診療を行うよう心がけております。今後は、生活習慣病の増加に伴い腎疾患がますます増えていくと予想されています。そのなかで、京都山城総合医療センターに腎臓内科が開設され、そこで診療ができることを大変うれしく思っております。今後は、京都山城総合医療センターが腎臓内科診療において、京都南部の中核病院として機能し、地域の皆様によりよい腎臓病の医療を提供できるよう努力を続けて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



腎臓内科 浅井 修

はじめまして。2013年9月より腎臓内科に着任しました浅井修と申します。今までは主に奈良県内の病院で腎疾患を中心に診療に従事させていただいてまいりました。この度、京都山城総合医療センターで腎臓内科を新設するにあたり、縁あってこちらで働かせていただくこととなり大変嬉しく思っております。

腎疾患、特に最近よく啓蒙されている慢性腎臓病は、長い間無症状で経過するため、早い段階で発見されることがまだまだ少ない疾患ですが、早期に発見し、治療介入することが腎臓内科の重要な任務だと思っております。また、当院周辺には腎臓内科を掲げている病院が少ないことから、今後当科の果たすべき役割が徐々に大きくなってくると思われまします。今後は京都南部の基幹病院として地域の皆様に貢献できよう頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



小児科 加納 原

9月から小児科に赴任しました。当院に来る前は、15年間の一般小児科診療の後、この3年間は米国の小児病院で血液やアレルギーの研究を行っていました。当院でも、血液、アレルギーの病気に限らず、地域のお子さん達の健康に貢献できるよう励んで参ります。また小児科医は、お子さんの健康な発育への総合的なアドバイザーだと考えています。育児に関して知りたいことがあれば出来る限りお答えしますので、お気軽に受診ください。

院内研究会

12月7日(土) 院内研究発表会が行われ、今年度も研修医、看護部、コメディカル、医事課部門合わせて14部門からそれぞれの専門性を発揮した発表がありました。年々活気を帯びてくる発表会に多くの参加者があり、長時間に渡り行われましたが皆真剣な面持ちで発表に聞き入っていました。

同じ病院内で働いている職員同士ではありませんが、各部門どのような知識を有して職務を遂行しているのかわからない部分があります。しかし職員全体でこのような場において、それぞれの専門的知識や技術、さらに問題の解決策について学び、共有することはチーム医療を行う上で重要だと感じます。また他部署から自分の部署を見てもらうことで違う目線から見てもらうことも出来ます。我々医療従事者は自分の部署だけでなく、他の部署を知ることにより質の高い医療を迅速に患者さまに提供できると考えています。来年度も今年以上に更に充実した発表会を開催したいと思います。



外来患者満足度調査

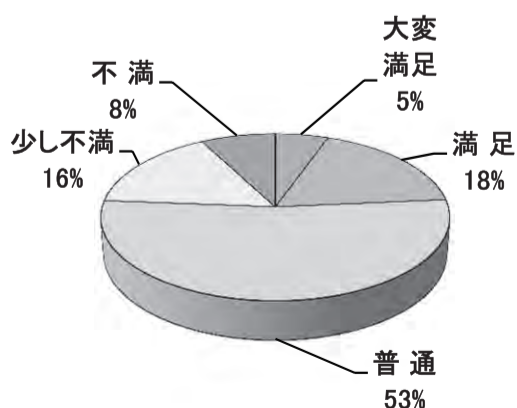
当院では、平成25年7月22日～7月24日の3日間、外来患者さまを対象にアンケート調査を実施いたしました。ご協力いただいた614名の患者さま・ご家族さまにお礼を申し上げます。

アンケート結果から、当院への交通手段は「自家用車」と回答された方が73%で、年々自家用車で来院されている方の割合が増加しています。待ち時間に対する満足度については、24%の方が不満を持たれているという結果となりました。駐車場の込み具合、患者数、診察・検査内容等により待ち時間が長くなったことなどが考えられます。

自由記述の中では、「子供が赤ちゃんの頃から診て頂いているので、夜間の救急があったらもっと助かる」、「診察室が狭い」、「看護師さんたちも親切です」等104件のご意見をいただきました。

今回のアンケートをとおして、患者さまからのご意見やご指摘あった事項につきましては、可能な限り改善に向け努力してまいります。この結果を全職員で共有し、今後も地域の皆様に信頼される病院となるよう、より一層医療サービスの向上に取り組んでまいりますので、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

待ち時間に関する満足度



「中学生の進路学習に参加して」 未来のナース発掘

木津中学校1年生の進路学習「わくWorkセミナー」に参加させていただきました。助産師の仕事とはどういうものか、助産師になる為にはどうしたら良いか、実際のやりがいと苦労という点でお話させてもらい、最後に出産のDVDを見てもらいました。

DVDを見て涙を浮かべる子がいたり、感想に助産師は素敵な仕事だと思つたと書いてくれる子がいたり、生徒達は真剣に話を聞いてくれて、私自身とても貴重な体験をさせていただきました。

助産師 福井 綾



きずなセミナーで、中学1年生約30名を対象に、看護師の仕事内容、やりがいやつらいことなどをお話し、実際に、聴診器や血圧計、駆血帯に触れてもらいました。生徒の皆さんは、一生懸命、私の話を聞いてくださいましたし、医療器具に触れてもらうと、楽しそうな声が聞けました。また、私自身も看護師の仕事のアピールが出来る楽しかったです。これから将来のことを考える中学生のたちのお手伝いできて、嬉しく思いました。

看護師 久保 麻衣子



災害訓練を終えて

晴天の11月30日(土)、地域の住民を守る為、「相楽医師会との協力体制」と、「災害時の初動体制の充実」の2本柱で医師・看護師・事務部門等総勢70名の参加のもと、災害訓練が行われました。木津川市は、人口約72,000人、人口数も年々増加している地域です。災害は、気象などの自然現象の変化、あるいは人為的な原因などによって、人命や社会生活に対する被害を生じる現象であり、いつ起きるかわかりません。皆様の記憶に新しい災害は、東日本大震災ではないでしょうか。

大規模災害が発生すると、大勢の被災者が訪れ混乱に陥ります。そのような中、安全を確保しながら、冷静に判断し迅速に行動しなければなりません。今回の訓練では、災害が発生した直後からの想定で、テントや机、椅子等を参加者が自ら運び、テントを設置しました。災害時は、何を優先に行うか、限られた人員の中、いかに適切な配置、限りある物品で治療を行うか、自分達で考え、行動する事が重要です。今回は、休日診療所の協力を得て、初期診療を相楽医師会の医師に担当して頂き、急変した被災者を当院が受け入れる、双方の連携訓練も行いました。

このように、当院では、毎年大規模災害を想定した訓練を行い、地域住民の方々に安心した医療の提供が出来るように日々努力をしています。私達は、災害拠点病院としての役割を忘れずに、常に災害に対する意識を持ち、行動していきたいと考えております。

今後も、山城南医療圏の病院、診療所、保健所、消防等の各機関との連携を更に強化し、地域住民の安全の確保に努めてまいります。

住民の皆様も災害に備えた物品や避難場所等を日頃からご家族と話し合い準備をしておくことをお勧めいたします。

災害対策委員 豊島 邦代



丹後半島 京都府市町村職員厚生会 駅伝大会

京都山城総合医療センター・老健やましろでは、職員の福利厚生また健康増進の一貫として、毎年、丹後半島で行われる駅伝大会に出場しています。京都府最北端である丹後半島の18.5kmを6区間6人で襷をつなげます。海岸線を走る事が出来るため景色は最高ですが、アップダウンが続く過酷なコースとなっております。今年は比較的暖かく走りやすい天候でしたが、風雨や雪の中を走る年もあり自然の厳しさを感じさせられる事もしばしばです。

参加チームは京都府内の市町村役場や消防、病院等の職員で構成される約60チームです。今年も当センターから一般チームと女子チーム合わせて3チームが参加し、選手は一丸となって、絆の襷をつなげ全チーム健闘し完走いたしました。そして女子チームは2位になり、ある職員は区間記録を30秒も更新するという輝かしい成績を残しました。大会に向け約3ヶ月前から練習も行っており、健康の維持、心身のフレッシュ、そして職員間の交流にも繋がる為、これからも継続して参加していきたいです。



